



映画監督。俳優。エッセイスト。商業デザイナー。テレビマン。CM作家。昭和8(1933)年、京都市生まれ。父親は松山市出身の映画監督・伊丹万作。父の死を機に松山市に転居。高校卒業後上京し、新東宝編集部を経て商業デザイナーに。26歳で大映に入社、俳優になる。存在感のある俳優として活躍し、外国映画「北京の55日」「ロード・ジム」にも出演。昭和58(1983)年公開の「家族ゲーム」「細雪」でキネマ旬報

助演男優賞を受賞。1970年代には「遠くへ行きたい」などのドキュメンタリー番組を制作するほか、テレビCMの名作にも数多く携わる。また、精神分析をテーマにした雑誌『モノクル』を創刊、編集長を務めた。

51歳の時に「お葬式」で映画監督としてデビュー、高い評価を受け、日本アカデミー賞最優秀作品賞、キネマ旬報ベストワンなど数多くの賞を受賞。以降「タンポポ」「マルサの女」「あげまん」「スーパーの女」など10作品を監督。

俳優時代から名エッセイストとしても知られ、代表作に「ヨーロッパ退屈日記」「女たちよ!」「問いつめられたパパとママの本」「日本世間噺大系」など。翻訳やイラストも手がける一方、家事や子育てに関心が深く、料理の腕も一級だった。平成9(1997)年没。享年64歳。

略歴

- 昭和8(1933)年 5月15日、伊丹万作(池内義豊)の長男として京都市に生まれる。
本名・池内義弘
- 昭和25(1950)年 松山へ転居し、県立松山東高等学校へ転入。2年後、松山南高等学校へ転入
- 昭和29(1954)年 松山南高等学校を卒業、上京し、新東宝編集部を経て商業デザイナーになる。
- 昭和35(1960)年 大映入社。「伊丹一三」の芸名で出演し俳優デビュー。
- 昭和36(1961)年 「北京の55日」(ニコラス・レイ監督)出演のため渡欧
- 昭和38(1963)年 『洋酒天国』56号にエッセイ「ヨーロッパ退屈日記」を発表
「ロード・ジム」(ピーター・ブルックス監督)出演のためロンドンでカメラテストを受けたのちカンボジア滞在
- 昭和44(1969)年 女優・宮本信子と結婚
- 昭和45(1970)年 テレビ「遠くへ行きたい」初出演。以降、ドキュメンタリー番組に多数携わる。
- 昭和54(1979)年 一六タルトCM(愛媛県限定)初放送。ほか、代表的なテレビCMに味の素マヨネーズ、ツムラ日本の名湯、西友などがある。
- 昭和58(1983)年 出演映画「細雪」(市川崑監督)、「家族ゲーム」(森田芳光監督)公開
(キネマ旬報助演男優賞受賞)
- 昭和59(1984)年 前年の義父の死去と葬儀の経験をもとにシナリオを執筆、初めての脚本監督作品「お葬式」として公開(日本アカデミー賞最優秀作品賞、キネマ旬報ベストワンなど受賞)

昭和62(1987)年 国税査察官を主人公とした脚本監督作品「マルサの女」公開(日本アカデミー賞最優秀作品賞、シカゴ国際映画祭最優秀主演女優賞など受賞)

平成9(1997)年 12月20日、64歳で永眠

<関連図書>

- 「考える人」編集部『伊丹十三の本』新潮社 2005年
- 伊丹十三記念館『伊丹十三記念館ガイドブック』伊丹プロダクション 2007年

<関連施設>

- 伊丹十三記念館 〒790-0932 愛媛県松山市東石井1丁目6番10号
Tel:089-969-1313

(画像提供:伊丹十三記念館)

愛媛県生涯学習センター:TEL 089-963-2111(内線212)
掲載情報の無断転載を禁じます。